

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105115
法人名	(有) 鹿児島 メディカル
事業所名	グループホーム あらた
訪問調査日	平成20年10月25日
評価確定日	平成21年1月19日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105115		
法人名	(有) 鹿児島 メディカル		
事業所名	グループホーム あらた		
所在地	鹿児島市荒田1丁目51-14 (電話) 099-252-2561		
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年10月25日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】(20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算	16.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4階建ての	1~3階部分	4階一部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 1100円	その他の経費(月額)	1日 600円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000円			

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	8名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 85歳	最低	75歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たちばな循環器科	いいやま病院	小田代病院	村岡歯科医院
---------	----------	--------	-------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部にあり、人や車の往来の多い通りにホットする人に優しい玄関づくりがなされ環境づくりにこだわるホームが開設されている。地域への情報発信も文書で掲示している。小学校との交流・地域の文化祭など積極的に参加している。ホームとして認知症に関する相談窓口体制も確立し、まさに地域密着型である。利用者の生活は意思決定を尊重しながら、ゆっくりと落ち着いた日常を過ごしている。利用者の表情も豊かで、当たり前の暮らしが支えられて、生活環境も心配りがなされ、職員の優しさ、明るさが利用者の生活の質を高めている。家族などは安心・満足している。ケア指導者を配置し、職員も研修につとめ、質の向上を目指している。医療体制も母体が病院であり医療・福祉の連携も充実している。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	災害の備蓄に対する取り組みは各ユニット毎に備蓄品チェック表を作成している。非常用食品や飲料水も備蓄されて改善課題に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を職員は理解し自己評価に取り組んでいる。地域との関わりを密にしていく取り組みや、利用者一人ひとり・職員の満足度について意見が出されて評価を活かし具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は定期的に開催されている。参加者に地域資源(消防署・警察署・民生委員)の方々が多く、ホームの安心・安全確保に活かされている。食事形態のあり方や、手すり(トイレ)の設置などの意見が出され、対応に努め、改善とホーム便りのグレードアップに取り組むサービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	相談窓口を明記したり、意見箱を設けている。意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。トイレの手すりやウォシュレットの設置など要望に即対応し、家族などに満足が得られている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており、利用者と一緒に回覧板を持って行ったり、認知症高齢者・家族などの相談窓口を設けて地域とのつながりを大切にしている。また地域行事(文化祭・清掃参加)小学校運動会に参加したり雑巾づくりやベルマーク活動などより良い関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が家族との絆と今までの生活を大切に寄り添い触れ合いながら生活し地域の人たちとの深い絆を結ぶように支える支援をしたいという理念を開設時に各職員の思いを集約して作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・指導者は常に勉強会や申し送り時に理念を生きた方針として語っている。職員は理念を原則として共有しながら日々のケアの統一を目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、利用者と一緒に回覧板を持って行ったり認知症高齢者・家族などの相談窓口を設けて地域とのつながりを大切にしている。また地区の行事・(文化祭・清掃参加)や小学校運動会に参加したり雑巾づくりやベルマーク活動などより良い関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を職員は理解し、自己評価に取り組んでいる。地域との関わりを密にしていく取り組みや利用者一人ひとり・職員の満足度について、意見が出されて具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催されている。参加者に地域資源(消防署・警察署・民生委員)の方が多く、ホームの安心・安全確保に活かされている。食事形態のあり方や手すり(トイレ)の設置などの意見が出され対応に努め改善とホーム便りのグレードアップに取り組みサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者にホームの運営やサービスについて相談しながら関係作りを積極的に行っている。また市の介護相談員の来訪も受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りを発行している。家族会・来訪時に心身状況や暮らしぶり・職員異動・行事予定・防災訓練など報告している。金銭管理は出納帳で管理し定期的に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を明記したり、意見箱を設けている。意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。要望に即対応し家族などに満足が得られている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者・家族などとのなじみの関係を重要視したケアを心がけている。やむをえない異動の場合には職員にホームの理念や考え方をしっかり指導し、利用者には不安がないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成している。外部研修は段階に応じた研修に参加して復命研修報告をしている。また内部研修は指導者による勉強会などで職員の技術や知識の向上に努めている。資格取得者が数名おり未取得者を支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入しており、他事業所と見学交流や情報交換など積極的に行っている。また県依頼の研修生も受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には本人と家族に面談し、生活状態・思いや不安を十分に把握している。またなじめる様に見学や十分な説明をし、信頼関係を築き不安なく入居できる様に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中でその人の特技(行事食作り・片付け)を発見したり感謝の言葉や笑顔に職員は励まされながら日々を共にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりを理解し本人の言動・表情・サインの把握につとめている。職員間の情報交換に努め利用者が自由に表現、自己決定できる環境である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートがしっかり記録されており、本人や家族の意向・主治医の意見・職員の気づきや意見を反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期(3ヶ月)・長期(6ヶ月)の見直しをしている。個別記録にケアの実践・結果・気づきを記録して情報を共有し、利用者の状態変化や入退院の際やその都度モニタリングを行い評価結果を見直しに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族などの状況や要望に応じて、病院受診や墓参り、外泊など必要な支援を柔軟に対応している。医療と連携がとれている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して家族・医師・看護師を交えて話し合い職員も共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針が定められて家族などの同意書も作成されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため尊厳に対する関わり方について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められている。食事・起床・掃除・入浴・レクリエーションなどその人の生活リズムと身体状況を大切にしながら本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好をメニューに入れている。買い物・下ごしらえ・盛りつけ・下膳など出来る事を一緒に行いながら、職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが、一人ひとりの希望や体調に合わせて対応している。また同性介助に心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	梅干し作り・折り紙・編み物・カレンダー作り・洗濯物干しやタミ等利用者の趣味や特技を発揮できるように支援している。又気晴らしの支援には足湯・理美容院・友人宅訪問や電話・外食・木市等に出かけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物、公園・外食に出かけている。またドライブを兼ねて、ソーメン流し、動物園、花見など外出の機会作りを工夫し閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、プライバシーに配慮しながら見守りに努めている。危険防止については安全対策委員会で検討されており、利用者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練(昼間・夜間想定)を警察署・地域の消防分遣隊・地域住民の協力のもと行っている。協力者には利用者の身体状況を把握してもらっている。また災害時の備蓄チェック表を作り、完備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を管理記録に明記して一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保が出来るように支援している。身体状況に合わせて、食事形態を変えている。また栄養士のアドバイスもうけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で明るく臭いがなく温度や湿度に配慮されている。玄関やベランダ・ホールに季節の花々が飾られて落ち着いた雰囲気がつくられている。随所にソファやタミ部屋などくつろげるスペースが確保されて、利用者はそれぞれゆったりと過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇・キーボード・琴・化粧箱・ぬいぐるみ・家族写真等使い慣れた物品が持ち込まれている。また居室入口に分りやすいのれんや表札が掲げられて、それぞれ個性のある居室づくりになっている。		